



「ダンスの楽しさを伝えたいです」と、菊地さん

輝いています

ダンスインストラクター

# ひと

きくち ひろこ 菊地 絃子 さん

## ダンスで子どもたちに笑顔を

「ヒップホップダンスの魅力は型に縛られず、自由な振り付けで踊れることですね」と、優しい笑顔で話すのはダンスインストラクターの菊地絃子さん(34歳・南町4丁目)。ダンス歴は23年、18歳の頃には同年代で競う全国大会で、仲間とともに準優勝に輝いたほどの実力の持ち主です。現在はスタイリストとして働く傍ら、市内の公民館や児童館などのほか、市外でも定期的に教室を開き、子どもたちにダンスの魅力を伝えている菊地さん。指導者の道を志したのは21歳のときでした。知人の依頼で、初めて講師として臨んだレッスンの参加者は、活発な子から控えめな子

までさまざま。でも、リズムに合わせて体を動かすとみんな笑顔になり、レッスンは大成功でした。更にはいちばん恥ずかしがり屋さんだった子の母親から、「娘が明るく、積極的になったんですよ」といった、うれしい報告も。体で思いを表現することで心を解き放てるダンスの魅力をあらためて実感した菊地さんは、もつと子どもたちがダンスに触れる機会をと、これまで十数年にわたり、700人以上を指導してきました。そんな菊地さんがレッスンで心がけているのは、「踊りを楽しんでもらうこと」。親しみやすい選曲や踊りやすい振り付けのほか、ジャンプやターンを多用した練習など、工夫を凝らしています。そして、一人ひとりの長所を引き立てられるよう、細やかな声かけも欠かしません。こうした和やかな雰囲気のある教室は評判を呼び、6月に東公民館で行ったイベントも大盛況でした。今後も「レッスンを通じて、仲間づくりや新たな自分を発見するきっかけにしてほしいですね」と、ほほえむ菊地さん。子どもたちへの軽快な掛け声と笑顔で、これからもダンスの楽しさを伝えていきます。

### 今月の河鍋暁斎記念美術館

## 天才絵師の作品 蔵にあり

— No.15 —



本作品は展覧会で御覧いただけます

河鍋筆「猫と鼠」 沢村板 大判錦絵

三日月の夜、鼠をぶら下げる猫。この作品は版画(多色刷木版画「錦絵」)です。暁斎は数多くの生物を飼っており、中には猫もいました。そして猫の寝姿や鳥を見つけて振り向く姿、獲物に飛びかかる姿など数多くの写生を残しています。この版画も、ある夜、暁斎が遭遇した猫と鼠だったのでしょいか、それとも暁斎の空想か。後ろ姿だけのため、猫の表情は想像するしかありませんが、そこがこの版画のおもしろさでもあります。三日月にかかる墨のほかしや、パレンで摺った背景のムラも絶妙で飄々としたそこはかないユーモアが漂う、味わい深い作品に仕上がっています。

### 河鍋暁斎記念美術館

「写生とユーモア 動物さまざま」展  
同時開催「第31回かえる展」  
期間=8月25日(金)まで

開館=午前10時~午後4時 休館=木曜日  
毎月26日~末日 ところ=南町4-36-4  
入館料=一般540円 中学生~大学生430円  
小学生以下210円 詳細=同館(☎441-9780)  
(20人以上の団体は要予約)



展覧会の詳しい内容は美術館のホームページをご参照ください

Kyosai  
Kawanabe

現在の茨城県古河市で生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勲業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の暁翠も日本画家。



かわなべ きょうさい 河鍋 暁斎  
天保2年(1831) ~明治22年(1889)